



テーマ 産後ケアを中心とした助産師の現状と課題

ご意見

- ・市が助成している産後ケア応援券の金額(5,000円)が少ないので検討してもらいたい。
- ・産後ケア応援券のことを知らない人が多い。周知方法を再検討してもらいたい。
- ・産後うつなどが原因で、デイサービス型の産後ケア事業に参加できないお母さんがいるので、今後、助産師と市民健康課でケアを必要とする母子世帯の情報交換を行うことができないか。

市長の回答

- ・実行可能なものは、予算化して令和3年度から取り組んでいきたい。
- ・長期的な視点が必要なものは検討して、今後の本市の総合計画の参考としたい。
- ・デイサービス型の開催の在り方、アウトリーチ(訪問)型の支援策の検討を含め、今後も現場で頑張ってください。助産師の方々とは担当課の連携を深めていきたい。

これから私たち「広聴・新ビジョン調査プロジェクトチーム」は、広く市民の皆さまの声を聞くため、さまざまな職種の方との対話の場を設けるなど「開かれた市政」を目指してまいります。

広聴・新ビジョン調査
プロジェクトチーム
第2回令和デザイントーク
運営担当 中島
広報担当 橋

令和デザイントーク

reiwa design talk

第2回

令和デザイントークとは…
広く市民の声を聴くために開催される新しい市民との対話の場とし、次期総合計画への反映と市職員の人材育成・政策形成能力の向上などさまざまな分野への波及効果を目的としています。

第2回トーク要旨

- 開催日/令和2年12月25日(金)
開催場所/市役所本庁 応接室
出席者/
○公益社団法人 鹿児島県助産師会 会員
・岩元助産院助産師 岩元妙子氏
・るんるん助産院助産師 藤崎るみ子氏
・ふわり助産院助産師 山下百恵氏
○薩摩川内市
・田中市長
・平原医療福祉対策監
・宮地市民健康課グループ員



※全体写真の撮影時のみマスクを外しております。

日本国憲法においては、個人の尊重と法の下の平等がうたわれ、男女共同参画社会基本法第3条では、男女の個人の尊重として、「男女の個人としての尊厳が重んじられること…(省略)」とされています。

「一人一人の個人の尊重」とは、誰もが自分らしく生きることができ、お互いの違いを認め合う心によって守られることです。

新型コロナウイルス感染症拡大による暮らしの不安が広がる中で、芸能人の相次ぐ自死の報道や、厚生労働省が発表している令和2年1月～11月の累計自殺者数(速報値)を見ると、前年と比べ、426人増えています。

なぜ、自分で死を選択しなければいけなかったのでしょうか。「人権」というキーワードから考えてみましょう。



そのままのあなたでいいです。

どこかであなたに元気づけられている人がいて、誰かを助けているかもしれません。

そして、あなたのことも見ていてくれる人がいる、気付いてくれる人がきっといます。

苦しい時に「助けてください」と声を上げてください。頑張り過ぎないで時には、甘えてみてください。自分を大切にすることを忘れてないでください。



あやうく
一生懸命生きる
ところだった
著/ハ ワン

同じ人生なら「一生懸命」より「楽しく」。40歳を目の前にして会社を辞め、頑張りずに生きることを決心した著者が贈る、生きづらさを手放すための言葉の数々。「自分らしい生き方」に出会える人生エッセイ。

何でも無料相談室
時/毎週土曜日13時～16時
所/Sプラザせんだい
男女共同参画センター(Sプラザせんだい内)
(25)6056
※令和3年2月より、場所と電話番号が変更になりました。

育ってきた環境や、価値観の違い、考え方もさまざまで、苦しいこと、悲しいこと、時には、自分では解決できないこともあると思います。そんなときは、一人で悩まないで、「助けて」と言える社会に、そしてそんな声に耳を傾けられる社会になるように「気付き」や「声掛け」など私たち一人一人の行動から始めましょう。

自分を大切にすること

とらいあんぐる
男女共同参画情報コーナー
わたしたちの望む社会へ
とらいあんぐる
～一人一人が幸せを実感できるまちへ～
編集/「とらいあんぐる」編集員
問合せ/本庁企画政策部 ひとみらい政策課
ひとみらい政策グループ(内線 4741)